

# 第3章

# 事例編

特別な教育的ニーズのある児童等一人一人の学びを充実させるためには、以下に示す3つの視点から捉えることが大事です。

全体への支援（ユニバーサルデザインの視点）

各教科のねらいを達成するための授業改善

全体における個への配慮（合理的配慮の視点）

1時間の授業の目標を達成するための支援

個別の指導（自立活動の視点）

各教科において育む資質・能力を支える基礎的な部分の指導

通常の学級に  
おける学び

## 【合理的配慮と自立活動の関わり】

➤ 学校教育における自立活動と合理的配慮の関係は、二つの関連で捉える必要がある。

### 「指導する視点」と「配慮であるという視点」

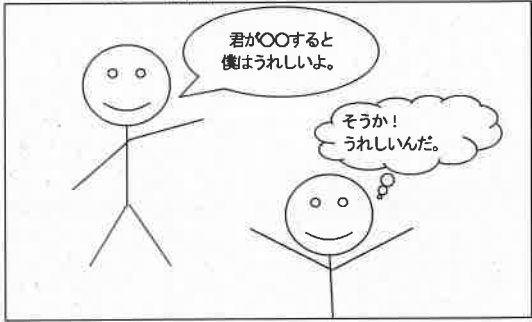
(例)

- 小さい文字が見えにくい児童が他の児童と平等に授業を受けられるよう、教師が拡大したプリントを用意する。  
⇒「合理的配慮」
- プリントの文字が見えにくいという学習上の困難を主体的に改善・克服できるよう、弱視レンズ等を活用するために、知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的に指導する。  
⇒「自立活動」



## 「聞く」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<p>○ 言葉を聞き間違える。(例:「はな」を「あな」、「はんこ」を「はこ」と間違える。)</p>	<p>○ 似た音を聞き分けることが苦手である。</p> <p>○ 聴覚に障がいがある場合がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し手(教師等)が、正しい発音ではっきりと話す。</li> <li>● 聞き間違いそうな言葉については、文字に書いて示すなどして、確実に聞き取れるようにする。</li> <li>● 文字当てごっこや言葉集め、似た音の聞き分けなど、興味をもって聞くことができるゲームなどを行う。</li> <li>● 児童等が聞きやすいところに、座席の配置を配慮する。</li> </ul>
<p>○ 指示されたことをすぐに忘れてしまう。</p>	<p>○ 情報を記憶しておくことができない。</p> <p>○ 一度に複数の情報を処理することが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝言ゲーム、スリーヒントクイズなどを行い、聞いて覚える活動に親しむようにする。</li> <li>● 必要な情報は、短い言葉で端的に伝える。</li> <li>● 話の内容理解につながる具体物や写真等の画像を示したり、指示内容を板書したりするなどして、視覚的に確認できる方法で伝える。</li> <li>● 複数の指示がある場合は、一つの指示による行動が終わってから、次の指示を出す。</li> <li>● 話を聞きながら、要点や重要なことをメモする習慣を身に付けられるようにする。</li> </ul>
<p>○ 集団場面で一斉の指示を聞くことが難しい。</p>	<p>○ 必要な話とそうでない音を区別しにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集中して話が聞けるよう、座席の配置を配慮する。</li> <li>● 分からないときの聞き返し方や困ったときの援助の求め方などの練習をしておく。</li> <li>● 「今から大事なことを言います。」など、前置きをしてから指示をする。</li> <li>● ルールを明確にし、話を聞きやすくなるような環境をつくる。</li> </ul> <p>(例) 静かになってから話し始める。</p> <p style="padding-left: 2em;">誰かが話しているときは、話し終わるまで黙って聞くようにする。</p>

	<p>○ 自分に関係している話であることに気付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童等に近づいたり視線を合わせたりして、自分に関係している話であるという意識がもてるようにする。</li> <li>● 名前を呼ぶなどして、話し手に注意が向いているのを確認してから話し始める。</li> </ul>
<p>○ 口頭での指示内容を理解することが難しい。</p>	<p>○ 話を聞いて、内容を理解したりイメージしたりする力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抽象的な表現や指示語を使わず、分かりやすい言葉で話す。</li> <li>● 短く、ゆっくり、繰り返し話す。</li> <li>● しりとり、伝言ゲーム、言葉集め、なぞなぞ等、言葉の遊びを通して、語彙を豊かにする。</li> <li>● 話の内容や言葉の意味を、図や絵を使って説明する。</li> </ul>
		<p>(例：コミック会話)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● あらかじめ要点を示し、話の見通しがもてるようにする。</li> <li>● 一斉指示後に、指示内容が理解できているか、個別に聞いたり言語化させたりして確認する。</li> <li>● 聞いたことを書く(聴写)練習をする(聞きながらメモを取る力につなげる)。</li> <li>● 指示内容が理解できなかった時に、「もう一度説明をお願いします。」など、聞き返すスキルを身に付けられるよう練習をする。</li> </ul>

## 「話す」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特定の発音しにくい音がある。</li> <li>○ 話し始めの音を繰り返したり、詰まったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 似た音を聞き分けることが苦手である。</li> <li>○ 舌や唇などを適切に動かすことが苦手である。</li> <li>○ 吃音がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し手（教師等）が正しい発音ではっきりと話す。</li> <li>● 正しく発音ができなくても聞き返しをせず、話そうとする意欲を尊重する。</li> <li>● 正しい音と誤っている音、似ている音等を聞き分ける練習をする。</li> <li>● 口や舌の体操や呼気練習教具などを使って、口や舌の運動機能を高める練習をする。</li> <li>● 意識すれば発音できる音については、教科書等に印を付け、自分で気を付けて発音できるようにする。</li> <li>● 声が詰まって出てこなかった時に、児童等が話しやすい方法で話すことができるようにする。</li> </ul> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深呼吸をするなどして、口や体の構えを一度解いてから言い直す。</li> <li>・最初の音をゆっくりと引き伸ばしてから話す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童等が話そうとしている内容に注意を向けてじっくりと聞くなど、安心して話すことができる受容的な雰囲気をつくる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会話が断片的であり、単語の羅列が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語彙が少ない。</li> <li>○ 言葉の想起力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝えたいという気持ちを受け止め、共感しながら聞くようにし、児童等の話す意欲を大切にす。</li> <li>● 興味・関心に応じた教材を活用し、言葉のやり取りを楽しみながら使える語彙を増やす。</li> <li>● あらかじめ話すことを書かせてから、発表するようにする。</li> <li>● 児童等の生活や興味・関心のあることなどと結び付けながら、言葉を覚えられるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容を順序立てて話すことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文や文章を構成する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 順序立てて話せるように、5W1H（だれが、いつ、どこで、なにを、どうした等）や順序を表す言葉（まず、次に、最後に等）を示す。</li> <li>● メモを作るなどして内容を整理し、見通しをもって話ができるようにする。</li> </ul>

	○ 記憶力が弱いため、順序を追って表現することが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し終わった後に、教師が質問をして、児童等が話した内容では十分に伝わらなかった部分を補うようにする。</li> <li>● 写真、動画などの視覚的手掛かりを用意する。</li> <li>● あらかじめ話したい内容をメモさせてから、発表するようにする。</li> <li>● 児童等が学校行事など、学校で経験した身近な出来事を取り上げ、時間軸でその状況やその時の気持ちを思い出しながら、話すことができるようにする。</li> </ul>
○ グループでの話し合いに参加することができない。	○ 記憶力が弱いため、相手の話を受けたやり取りが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し合いの進め方や議題などを示す。</li> <li>● 事前に議題に対する自分の考えをまとめておくようにする。</li> <li>● 相手の話した内容を忘れないように、ワークシートにメモが取れるスペースを設ける。</li> </ul>
	○ 話を聞く習慣やスキルが身に付いていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し合いのルールを示し、話している人が話終わるまで待つてから、自分の意見を言うようにする。</li> <li>● 分からないことがあったときの質問の仕方や、話の内容の確認の仕方など、話し合いのスキルが獲得できるよう練習を行う。</li> </ul>
○ 話す声が大きすぎたり、小さすぎたりする。	○ 行動のコントロールが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師が、その場に応じた適切な声の大きさを話をする。</li> <li>● 声のものさしや声の大きさを測定する機器などの視覚的な支援を活用して、適切な音量を意識しながら話せるようにする。</li> <li>● ICT機器を活用し、自分が話している様子を録画し、客観的に自分の話し方を振り返ることができるようにする。</li> </ul>

## 「読む」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 文字を読むことが苦手である。	○ 文字を音声に変換することが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文字からイメージする言葉や意味、イラストなどと結び付けて覚えるようにする。</li> <li>● 「へん」や「つくり」を組み合わせて漢字を作ったり、漢字の一部が削除されたものを見て、当てはまる部分を探したりするなどして、漢字を覚えるようにする。</li> <li>● 板書やテストなどで、読み上げたり振り仮名を付けたりするなどの配慮をする。</li> <li>● 声に出して文字を大きくなぞったり、本人の手のひらや背中に文字を書いたりして、触覚や運動感覚を刺激しながら覚えるようにする。</li> </ul>
	○ 文字の形を捉える力が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 語呂合わせや漢字の成り立ちなど、音声言語化して覚えるようにする。 (例) <b>木の上に立って見るのは親 三人と二人で演奏する。</b></li> <li>● フォントやサイズ、行間など、児童等が最も読みやすい環境を整える。</li> <li>● 音読の量を調整したり、教師が読み聞かせてから音読練習を行ったりするなどして、読むことへの抵抗感を軽減できるようにする。</li> <li>● 教師が読み聞かせたりICT機器の読み上げソフトなどを使ったりして、文字だけでなく音声を聞いて意味が理解できるようにする。</li> </ul>
○ 形がよく似た平仮名や片仮名、漢字を読み間違ふ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 注意力が弱い。</li> <li>○ 形を見分けることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読み間違いやすい字に印を付けて、自分で注意して読むことができるようにする。</li> <li>● 形合わせや間違い探しなどを活用して、形を見分ける力を高めるようにする。</li> <li>● 形がよく似ている文字の違っている部分に着目しながら、マッチング練習をする。</li> <li>● 形が似た漢字の一覧表を作成し、確認できるようにする。</li> </ul>

<p>○ 特殊音節のある語を読み間違ふ。</p>	<p>○ 文字と音が結び付きにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ねっこ」の音を「○○○」とシールで表したり、特殊音節ごとに記号を決めて表したりするなどして、音のイメージを視覚的に示す。</li> <li>● リズム打ちなどの動作化により、拗音がひとまとまりの音であることや促音や長音を一つの音としてとらえることなどを体得できるようにする。</li> </ul>
<p>○ 文字を一つずつ読む。(逐次読み)</p>	<p>○ 文字を音声に変換することが難しい。</p> <p>○ どこまでが一つの語のまとまりとして読むのか判断がしにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文字からイメージする言葉や意味、イラストなどと結び付けて覚えるようにする。</li> <li>● 積み木やかかるたなどを使って、「文字」と「音声」と「単語」を結び付けながら読む練習をする。</li> <li>● 文節に線を入れたり単語を○で囲んだり、分ち書きをしたりして、まとまりとして捉えられるようにする。</li> </ul>
<p>○ 文字や行を読み飛ばしたり、助詞や文末を読み間違えたりする。</p>	<p>○ 文字を目で追うことが難しい。</p> <p>○ まとまりとして捉えにくい。(単語・文節)</p> <p>○ 注意力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目の体操(眼球の運動)やまねっこ遊び(目と手の協応)などを行い、見る力を高める。</li> <li>● 行間を広げたり、読みやすいフォントやサイズにしたりして、児童等が読みやすい環境を整える。</li> <li>● 分ち書きや文節に区切り線を入れるなど、まとまりを意識して読めるようにする。</li> <li>● 定規を当てたり、指でガイドしたりしながら読む。</li> <li>● 助詞や文末に印を付け、意識して読めるようにする。</li> </ul>
<p>○ 文章の内容を理解することが難しい。</p>	<p>○ 読むことに時間がかかり、内容の理解ができない。</p> <p>○ 一度に多くのことを処理できない。</p> <p>○ 指示語の理解が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前に文章を読み聞かせたり、挿絵や写真を見せたりして、学習内容のイメージをもって授業に臨めるようにする。</li> <li>● 段落ごとに区切り、キーワードを見付けたり、設問に答えたりしながら、学習を進めるようにする。</li> <li>● 接続語から、文章や段落ごとの関係を捉えて図に表して理解できるようにする。</li> <li>● 指示語が指している言葉をその前の文から探し、あてはめて意味が通るか確認しながら理解するようにする。</li> </ul>



## 「書く」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆圧が弱かったり、芯が折れるほど筆圧が強かったりする。</li> <li>○ マスや線からはみ出した字を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指先で物を掴むなど細かい作業が苦手である。</li> <li>○ 目と手の協応動作が苦手である。</li> <li>○ マスの空間を捉えにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手や指を使った遊びやゲームなどを行い、手や指の動きを高める。</li> <li>● 下敷きに滑り止めマットを貼ったり、補助具を使ってグリップを太くしたりして、筆圧を調整する。</li> <li>● 自分が書きやすい文字のサイズが選択できるよう、ノートのマスを統一しない。</li> <li>● 文字の書き始めの箇所印を付けたり、1マスを4つに区切って色分けし、何色の部分に文字のどのパーツがあるか示したりして、文字の形や大きさを捉えられるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平仮名や片仮名を独特の筆順で書く。</li> <li>○ 鏡文字（左右が反転した文字）を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目と手の協応動作が苦手である。</li> <li>○ 空間関係を捉える力が弱い。</li> <li>○ 左右の認識ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 点と点をつないだり直線や曲線を正確になぞったりする練習を行う。</li> <li>● 五十音表を見ながら文字を書くことを認め、書き順やとめ・はねは厳格にしない。</li> <li>● 間違いやすい文字の違う部分に色を付けるなどして強調したり、違いを言葉で伝えたりする。</li> <li>● 筆順ごとに色分けをして、どこを続けて書くか、視覚的に分かるようにする。</li> <li>● 薄く書かれた見本をなぞる。</li> <li>● 「鉛筆を持っている方が右」、「左から右に線を書く」などの声掛けをして、左右の認識ができるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特殊音節（長音、拗音、促音）を書くことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字と音が結び付きにくい。</li> <li>○ 細かな作業が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「がっこう」の音を「○○○○」とシールで表したりリズム打ちをしたりして、音の数を捉えることができるようにする。</li> <li>● 「ちゃ」「ちや」「ち」「や」のように複数のカード提示し、その中から正しい特殊音節のカードを選び、正しい表記の仕方を学べるようにする。</li> <li>● 点と点をつないだり直線や曲線を正確になぞったりする練習を行う。</li> <li>● 児童等が書きやすいマス目のノートを使用する。</li> <li>● 1マスを4つに区切り、促音や拗音の記入部分に色を塗るなどして、文字の大きさを意識して書けるようにする。</li> </ul>

<p>○ 板書した文をノートに書き表すことが難しい。</p>	<p>○ 位置関係を捉える力が弱い。</p> <p>○ 目と手の協応動作が弱い。</p> <p>○ ノートに写し終わるまで記憶しておくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 板書の文字の大きさや色、行間を工夫する。</li> <li>● ノートのマス目の大きさ、罫線の間隔や太さなどに配慮する。</li> <li>● 板書の内容を精選したり、穴埋めのワークシートを用意したりして、書く量を調整する。</li> <li>● 風船バレーやスーパーボールキャッチなど、目の手の協応動作を高める遊びを行う。</li> <li>● 板書と同じ手本を渡し、手元に置いて書けるようにする。</li> <li>● 神経衰弱や伝言ゲームなどの遊びを通して、短期記憶を伸ばすようにする。</li> <li>● デジタルカメラやタブレット端末での板書の撮影を認める。</li> </ul>
<p>○ 漢字をよく書き間違える（似ているが、どこかが足りなかったり多かたりする）。</p>	<p>○ 文字の形を捉えたり記憶したりすることが苦手である。</p> <p>○ 文字を分解、合成する力が弱い。</p> <p>○ 注意力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 間違いやすい箇所を言葉で表す。(例:日は横1本、目は横2本)</li> <li>● 間違い漢字探しゲームや漢字学習アプリなどを利用して、正しい漢字を覚えるようにする。</li> <li>● 語呂合わせや漢字足し算など、既習漢字を組み合わせて、覚えるようにする。 (例) <b>立+日+心→意</b></li> <li>● 「へん」と「つくり」を分解し、それらを組み合わせながら漢字を作って遊ぶ。</li> <li>● 複雑な字は大きく書き示したり、間違いやすい部分については○を付けるなどして強調したりする。</li> </ul>
<p>○ 文章を書くのが苦手である（書くことが分からなかったり、順序よく書けなかったりする）。</p>	<p>○ 語彙が少ない。</p> <p>○ 助詞の働きが分からない（文の構造）。</p> <p>○ 時系列にまとめる力が弱い。</p> <p>○ 書くことに意識が集中して、内容を考えることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文章の量は問わないこととし、児童等が興味・関心がある内容を題材にして、意欲を喚起する。</li> <li>● 文章を書く前に、挿絵や写真などを活用して、そこからイメージする言葉を集めておく。</li> <li>● 助詞の穴埋めや選択をしながら、挿絵に応じた文を完成させ、助詞の働きを理解できるようにする。</li> <li>● 5W1H（だれが、いつ、どこで、なにを、どうした等）や、順序を表す言葉（まず、次に、最後に）を示したワークシートを用意し、構成を考える手掛かりとする。</li> <li>● インタビュー形式で聞き取ったことをもとに、支援者が文章化し、それを視写して完成できるようにする。（口答作文）</li> <li>● パソコン等を活用して文章を書くことを認める。</li> </ul>

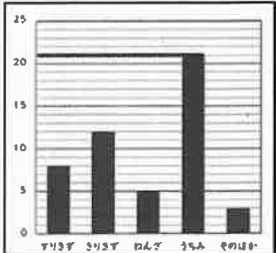
「計算する」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数を読んだり書いたりすることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数詞と数字と具体物(半具体物)を結び付けることが難しい。</li> <li>○ 数が順序や大きさを表すことを理解することが難しい。</li> <li>○ 目と手の協応運動が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体物や半具体物を、指で押さえながら数えたり、分けたり集めたりして、数に慣れ親しむようにする。</li> <li>● 「数詞」、「数字」、「具体物(半具体物)」のマッチングを行い、3つの対応関係を理解できるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 数直線や100玉そろばんなどを使って、数量の変化を視覚的に捉え、順に数えたり大きさを比べたりすることができるようにする。</li> <li>● 薄く書かれた数字の見本をなぞったり、点つなぎなどの練習を行ったりする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 暗算ができない。</li> <li>○ 九九が覚えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 耳で聞いて覚えることが難しい。</li> <li>○ 音を聞き分けることが苦手である。</li> <li>○ 九九を唱えることができるが、答えを想起することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 耳で聞いた式を、紙に書き写してから計算する。</li> <li>● 九九表を使って、かける数やかけられる数がどのように変化しているかなど、数字の規則性を手掛かりに視覚的に覚えるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <math>4 \times 6 = 24</math> (しろくにじゅうし)</li> <li>● <math>4 \times 7 = 28</math> (ししちにじゅうはち)</li> <li>● 「し」と「しち」など、似ている音の聞き分けができず混乱してしまうため、「4」は「よん」、「7」は「なな」などのように読み替えて覚えるようにする。</li> <li>● 九九カードなどを使って、九九の唱え方や式、意味と結び付けながら覚えるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div>

<p>○ 計算に時間がかかる。</p>	<p>○ 視覚認知（空間的な位置関係を把握すること）が弱い。</p> <p>○ 記号の意味を理解することが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計算問題の量を調整する。</li> <li>● 式と式の間を十分に取る。</li> <li>● 式を縦書きにして計算するようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <math display="block">\boxed{5 + 3} \Rightarrow \boxed{\begin{array}{r} 5 \\ + 3 \\ \hline \end{array}}</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体物や絵、図を使って、計算の意味を理解して計算できるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div>
<p>○ たし算・ひき算の繰り上がり、繰り下がり計算が苦手である。</p>	<p>○ 位の理解ができていない。</p> <p>○ 視覚認知（空間的な位置関係を把握すること）が弱い。</p> <p>○ 記憶しておくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数図ブロックなどの操作を通して、繰り上がりや繰り下がりの意味を理解できるようにする。</li> <li>● 位ごとに数字の色を変えて、示すようにする。</li> <li>● マス目のあるノートやワークシートを使用し、位取りを分かりやすくする。</li> <li>● 繰り上がりや繰り下がりの数を書きこむ場所を決めておく。他の数字と区別するために、○で囲むようにする。</li> </ul>
<p>○ かけ算の筆算を解くことが苦手である。</p>	<p>○ 手順を覚えることが難しい。</p> <p>○ 記憶しておくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手順カードや計算の仕方などを示したカードをみながら計算できるようにする。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p><b>かけ算の筆算</b></p> <p>① 1の位の計算をする。</p> <p>② 10の位の計算をする。</p> <p>③ かけ算の答えどうしをたす。</p> </div> <div style="text-align: center;"> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 繰り上がりや繰り下がりの数を書き込む場所を決めておく。他の数字と区別するために、○で囲むようにする。</li> </ul>
<p>○ わり算の筆算を解くことが苦手である。</p>	<p>○ 視覚認知（空間的な位置関係を把握すること）が弱い。</p> <p>○ 記憶しておくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わり算の筆算の計算の仕方を示したカードを見ながら、計算できるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>① たてる</p> <p>② かける</p> <p>③ ひく</p> <p>④ おろす</p> </div> </div>

「算数（数学）における推論する」ことへの指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て								
○ どのようにして解いたらよいか分からない。	○ 問題を解決する見通しをもつことが難しい。 ○ 注意集中することが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 解き方の手順を示し、見直しをもって取り組めるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="1007 479 1339 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>解き方の手順</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小さな声で、問題を読む。</li> <li>② 大事な数字、言葉に○をつける。</li> <li>③ 絵や図をかいて、確認する。</li> <li>④ +、－、×、÷を決める。</li> <li>⑤ 式を立てる。</li> <li>⑥ 式を解く。</li> <li>⑦ 答えを書く。</li> </ol> </div>								
○ 文章題の意味を理解することが難しい。	○ 文章を読む力が弱い。 ○ 文章から場面をイメージすることが難しい。 ○ 数の関係性を理解することが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行間を広げたり、フォントやサイズを工夫したりするなど、児童等が読みやすい環境を整える。</li> <li>● 問題を解く前に、問題文を読み聞かせる。</li> <li>● 文章の内容を、身近な場面や興味のある題材に変えて提示する。</li> <li>● タイルを操作したり、イラストに表したりするなどして、具体的なイメージがもてるようにする。</li> <li>● 文章題の中で、要点やキーワードとなる言葉に印を付ける。</li> </ul>								
○ 複雑な問題文を読んで解くことが苦手である。	○ 文章の内容を記憶しながら読み進めていくことが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題文の内容を段階に分けて示したり、絵や図などで表すようにする。</li> <li>● 問題文に沿って順に質問し、1段階ずつ答えを求めるようにする。</li> </ul>								
○ 立式することが苦手である。	○ 文章の意味から、どの演算を使えばよいか考えることが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題文でよく使われる言葉と式の関係性をまとめた表を作成する。</li> </ul> <div data-bbox="992 1406 1311 1635" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">+ たす</td> <td style="padding: 2px;">- ひく</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">全部で 増える 長く ～より多く</td> <td style="padding: 2px;">みんなで 合わせて 重く ～より多く</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">× かける</td> <td style="padding: 2px;">÷ わる</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">(同じ数)ずつ増える ～こ分</td> <td style="padding: 2px;">(同じ数)で分ける</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 絵や図、線分図など視覚的な手掛かりを使って、問題の意味と式をつなぐ。</li> <li>● 言葉で式を作った後に、言葉を数字に置き換えるようにする。 (例) (持っているお金) - (代金) = (おつり) 100 - 80 = 20</li> </ul>	+ たす	- ひく	全部で 増える 長く ～より多く	みんなで 合わせて 重く ～より多く	× かける	÷ わる	(同じ数)ずつ増える ～こ分	(同じ数)で分ける
+ たす	- ひく									
全部で 増える 長く ～より多く	みんなで 合わせて 重く ～より多く									
× かける	÷ わる									
(同じ数)ずつ増える ～こ分	(同じ数)で分ける									

<p>○ 形を見分けることが苦手である。</p> <p>○ 回転したり反転したりした図形、形や線が重なっている図形を見分けることが苦手である。</p>	<p>○ 形の特徴を捉えることが難しい。</p> <p>○ 空間における位置関係の把握や頭の中で、形を操作することが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身近な物や場所などの形に気付かせたり、仲間分けをしたりして、物の形に親しむようにする。</li> <li>● 形や位置の弁別を含む遊び「形はめパズル」「同じ・違う形の選択課題」「ペグさし」などを通して、形や位置の学習をする。</li> <li>● 棒や粘土を使っていろいろな形を作り、辺の数や長さ、頂点の数などに注目させる。</li> <li>● それぞれの形を言葉で説明することで、形を弁別する手掛かりとなるようにする。</li> <li>● 回転や反転した図形については、トレーシングペーパーなどを使って形を写しとり、重ね合わせることで、形を見分けるようにする。</li> <li>● 重なっている図形については、注目しやすいように色分けをしたり、線を太くしたりして見分けやすくする。</li> </ul>
<p>○ 作図をすることが苦手である。</p>	<p>○ 手先が不器用で、道具をうまく使えない。</p> <p>○ 道具の使い方が分からない。</p> <p>○ 作図の手順が理解できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● すべりにくい定規や、目盛りが見やすい分度器などを試しながら、児童等が一番使いやすい道具を使うようにする。</li> <li>● 操作の難しいところは、手を添えるなどして補助する。</li> <li>● 定規を使って点つなぎをするなど、作図に必要な道具の使い方の練習を事前に行う。</li> <li>● 道具の使い方をイラストや写真、動画などで確認してから、作業に取りかかるようにする。</li> <li>● 使うポイントを言葉や図で示した手順書を用意する。</li> </ul>
<p>○ 表やグラフを読み取ることが難しい。</p>	<p>○ 注意力が弱い。</p> <p>○ 視覚的な認知(空間の位置関係を把握こと)が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要のない部分を隠して表やグラフの部分だけが見えるようにしたり、表やグラフを拡大したりして提示する。</li> <li>● 立体パズルや迷路など、形や空間に関わる遊びを通して、視覚認知の力を高める。</li> <li>● 目盛りを入れたり、補助線を引かせたりして、数値を読み取りやすくする。</li> </ul> 

## 「運動」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 姿勢が崩れやすい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筋緊張をコントロールすることが難しい。</li> <li>○ ボディイメージがもちにくい（崩れていることに気付いていない）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 机や椅子を、姿勢を保ちやすい高さにする。</li> <li>● 椅子の座面に滑り止めマットを敷いたり、足置き用の台を置いたりして、足底を床面にしっかりと着け、体を固定しやすくする。</li> <li>● 登り棒やトランポリンなど、体の中心軸を作る運動や遊びを行う。</li> <li>● バランスボードや片足立ちなど、バランス感覚を高める運動を行う。</li> </ul>
○ 動きがぎこちない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体をうまく使うことが難しい。</li> <li>○ ボディイメージがもちにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体の感覚に気付いたり、体の使い方を体得したりできるよう、物に触れる、物を操作する、狭い中に入り込む、遊具で遊ぶなど、いろいろな遊びや運動に親しむようにする。</li> <li>● 真つすぐ引いたラインの上をはみ出さないように歩いたり、物を持って歩いたりしながら、体の中心軸を作る運動を行う。</li> <li>● 体の使い方を段階付け、スモールステップで具体的に指導する。</li> <li>● 言葉だけで説明せず、見本を示したり動画を見せたりして、体の使い方のイメージがもてるようにする。</li> </ul>
○ じっとしていることが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体の緊張が低いため、姿勢を保つことができない。</li> <li>○ 注意集中することが難しい。</li> <li>○ 刺激に対して過敏に反応してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業中に、合理的に体を動かすことができる活動を取り入れる。 （例）音読、プリントの提出、グループ学習など</li> <li>● 掲示物を減らしたり、座席位置の工夫をしたりして、落ち着いて活動できる環境を整える。</li> <li>● 学習の流れを示し、今何をすべきか意識しながら活動できるようにする。</li> <li>● 嫌な音が聞こえる場合は、イヤーマフの使用を認める。</li> <li>● 触覚が過敏な場合は、周りの児童等が必要以上に触れないように気を付けるなど、学級・学校全体で配慮するようにする。</li> </ul>

<p>○ 縄跳びが苦手である。</p>	<p>○ 両足ジャンプができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「跳ぶ」課題に、スモールステップで取り組む。 (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 両足ジャンプ 膝を曲げた状態から真上に跳ぶ。教師が両手を持って引き上げ、跳び上がる感覚をつかむ。</li> <li>② 両足ジャンプ+障害物 ゴムなどの障害物を、両足ジャンプで跳び越える。</li> <li>③ 連続で両足ジャンプ 好きな曲や手拍子に合わせて、連続で両足ジャンプをする。(少しずつテンポを上げる)</li> </ul> </li> </ul>
	<p>○ 縄を回す動きが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「縄を回す」課題に、スモールステップで取り組む。 (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 片方ずつタオルを回す。(利き手から) 二の腕を付けて、肘と手首を動かす。教師が手を添えて、肘と手首の動きを補助する。</li> <li>② 両手でタオルを回す。 タオルを両手でそれぞれ持ち、タオルで机を打つ。音がそろって聞こえる(=左右同じタイミングで打てる)ようになるまで練習する。</li> <li>③ 跳び縄を回す。 腕の動きだけに集中できるように、切った跳び縄を回す。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>○ 両手と足を協調して動かすことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「両手と足を協調して動かす」課題に、スモールステップで取り組むようにする。 (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 言葉で動きを唱える。 「回す」「跳ぶ」…という言葉を一のリズムで言う練習をする。</li> <li>② 跳び縄を使わず跳ぶ。 「回す」「跳ぶ」の言葉に合わせて、縄を回す、跳ぶ動作を行う。最初はゆっくり縄を回し、つま先に縄を当てて、それを合図に跳ぶ。徐々にリズムを上げていく。</li> </ul> </li> <li>● 持ち手の太さや縄の長さを、児童等が跳びやすいように調節する。</li> <li>● 「跳ぶ」→「縄を回す」→「両手と足を協調して回す」の順に練習を行う。 タブレット端末などを使って、動画で動きを確認しながら練習できるようにする。</li> </ul>



<p>○ ボールを投げるのが苦手である。</p>	<p>○ ボールを握ることが難しい。</p> <p>○ ボールを投げる動きが分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポンジボールが小さくなるまで握るなど、指先に力を入れて握る練習を行う。</li> <li>● 力が入りやすい大きさのボールを用意する。</li> <li>● 振り下ろしの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タオル/タオルの片側の端を結ぶ。結んでない方を手に持ち、投げるまねをする。タオルが床につくくらい大きく腕を振る。</li> <li>・ 紙鉄砲/しっかり振り下ろすと大きな音が出るため、分かりやすい。慣れてきたら斜め前方に腕を伸ばす。</li> </ul> </li> <li>● 手首のスナップの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さなボールを持って仰向けになる。ボールを持った手を顔の位置から真上に投げる。</li> </ul> </li> <li>● 前足のつま先を投げる方向に真っすぐ向けて投げる練習をする。</li> </ul>
<p>○ ボールをとるのが難しい。</p>	<p>○ ボールが怖い。</p> <p>○ 目と手の協応動作が苦手である。</p> <p>○ ボールの捕り方が分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞ボールやタオルボールなど、柔らかい素材のものを使用して、ボールに親しむようにする。</li> <li>● 転がしたボールを捕る練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくりボールを転がして、手のひら全体で挟んでとる動きから始める。</li> <li>できるようになったら、左右や前後に動きながらとる練習を行う。</li> </ul> </li> <li>● ボールを捕る準備（胸の高さで、相手に対して指を開いた状態で手のひらを見せる動作）ができているのを確認してから、投げるようにする。</li> <li>● スモールステップで捕る練習を行う。 <p>(例)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 相手が差し出したボールを捕る。</li> <li>② 近くから緩やかに投げたボールを捕る。</li> <li>③ バウンドさせたボールを捕る。</li> <li>④ 少しずつ離れながら、穏やかに投げたボールを捕る。</li> <li>⑤ いろいろな高さからのボールを捕る。</li> </ol> </li> <li>● 大きめのボールから行い、少しずつボールを小さくしていく。</li> </ul>

## 「動作」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 定規を持つ手を移動させたり、コンパスのつまみを指先で回したりするなどの扱いが難しい。	○ 手先に力が入りにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手や指を使った遊びやゲームや日常生活動作の練習などを行い、手や指の動きを高める。</li> <li>● 滑りにくい定規やねじ部分を太くしたコンパスなど、手先に力が入りやすい道具を使うなどの工夫をする。</li> </ul>
○ はさみを使って長いものや大きな円を切ることが難しい。	<p>○ 手先が不器用である。</p> <p>○ 視知認知（空間的な位置関係を把握すること）が弱い。</p> <p>○ 目と手の協応動作が弱い。</p> <p>○ 紙を保持することが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指遊びやじゃんけんなどの遊びを通して、握って開く動きを高める。</li> <li>● はさみの指を入れる部分を本人の指の大きさに合わせて布を巻くなどの調整や、ストッパー付きのはさみの使用など、扱いやすくする工夫をする。</li> <li>● はさみを持った方の肘を、机につけて作業することにより、指先に意識を集中できるようにする。</li> <li>● ビジョントレーニングなど見る力を高める練習を行う。 (例) 円を描くように指先を動かして、顔を動かさずに目だけで追い掛けたり、腕を前に伸ばして 40～50 cm 程度開き、左右の指先を交互に見たりする。 「ピントをすぐに合わせて注視する」、「動くものを追視する」、「視野を広げる」などを組み合わせると効果的である。</li> <li>● 視点が分かりやすいように、切る紙の始点と終点に穴をあけたり切込みを入れたりする。</li> <li>● 紙テープなど 1 回で切れる幅の紙を切る練習から徐々に幅を広げ、数回で切る練習を行うようにする。</li> <li>● はさみを持っていない方の手がうまく動かせない場合は、紙に手を添えて動きを補助する。</li> <li>● 紙を持つ力加減が分からない場合は、積み木をそっと積むなどの遊びを行う。紙を保持し続けることが難しい場合は、お盆で物を運ぶなどの動きの練習を行う。</li> <li>● 保持しやすい紙の厚さ、紙を持っている感覚が分かるような紙質のものを使用するなどの工夫をする。</li> </ul>

## いろいろな道具の使い方の支援例

### ○ はさみ

[持ち方] 親指とそれ以外の指を入れる穴が大きい場合は布やテープなどで穴を調整し、刃をコントロールしやすくする。親指以外の穴に人差し指と中指、薬指の3本を入れたり、人差し指と中指の2本を穴に入れたり、中指と薬指を穴に入れて人差し指と小指は穴の外から支えたりするなど本人に合った持ち方で練習する。

#### [段階練習]

- ① はさみを持った方の肘を机に付け、指先の動きに集中できるようにする。1回の刃の開閉で切れる幅の紙テープなどを切る。紙吹雪を作って遊ぶなど、遊び感覚や目的をもって行う。
- ② 視覚的に切るポイントが分かりやすいように穴をあけたり印などを付けたりして、切る始点、終点が分かるようにする。
- ③ 2～3回の刃の開閉で切る練習では、切り取り線をつけ、見通しをもたせる。直線が切れるようになったら緩やかなカーブを切る練習を行う。
- ④ 用紙に書いた四角形や丸を切る。用紙の大きさや厚さは、コントロールしやすいものを使う。

### ○ 定規

#### ・定規を押さえる

滑り止めがついた定規を使うなど道具を工夫したり、指先の力を高める遊びや練習をしたりする。

#### ・線を引く

定規の端を人差し指でなぞって、手首の滑らかな動きの練習をする。横の動きができるようになったら、縦や斜めなど、いろいろな方向に動かす練習をする。定規を持つ動きが上手くできない場合は、定規に手を添えて補助し、線を引くことに集中できるようにする。

#### ・始点と終点の2点に定規を合わせる

印を大きくし、合わせるができるようになったら、徐々に印を小さくする。

### ○ コンパス


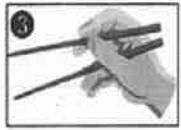

ペットボトルのキャップの開閉をしたり、ペグ指し遊びをしたりするなどして、ねじを回す動きを練習する。

ねじが太く回しやすいコンパスを準備したり、ねじの回りに毛糸などを巻いて凹凸を付け、つまみやすくしたりする。

コンパスの針を刺さずに、空中でねじを回す練習をする。

用紙やノートの下に滑り止めシートを使用したり、下敷きを使用しなかったりして、コンパスの針をしっかりと刺し、滑らないようにする。

※ コンパスを回して作図することが難しい場合は、コンパスを固定して、紙を回しながら作図するなど、児童等の実態に応じて柔軟に対応する。

<p>○ 箸がうまく持てない。</p>	<p>○ 手先が不器用である。</p> <p>○ 目と手の協応が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手に会った箸（長さ、太さ）を用意する。</li> <li>● スモールステップで練習する。</li> </ul> <p>（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 親指を動かさずに、それ以外の指を曲げ伸ばす動きを練習する。</li> <li>② 下の箸をはさんで持ち、親指で押さえる。</li> <li>③ 上の箸を鉛筆と同じ持ち方をする。</li> <li>④ 上の箸を動かして箸を開けたり閉じたりする練習をする。</li> <li>⑤ ティッシュなどを使って、つまむ練習をする。 ※大きなものから小さなものへ、厚いものから薄いものへ段階的に練習する。</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
<p>○ 蝶結びが苦手である。かた結びになってしまう。</p>	<p>○ 手先が不器用である。</p> <p>○ 見通しをもつことが難しい。</p> <p>○ 目と手の協応動作が苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紐通しなど遊びを通して、手指の細かな動きを高める。</li> <li>● 細い紐ではなく、面を意識できる扱いやすい素材（リボンなど）を使って練習する。</li> <li>● 手順表を作成し、一つ一つの作業を確認しながら取り組めるようにする。</li> <li>● 児童等の実態に合った蝶結びの方法を選ぶようにする。</li> <li>● スモールステップで練習する。</li> </ul> <p>（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 左右の紐を交差させ、しばる。 ※ 右側と左側のリボンの色を変えることで、作業を確認しやすくする。</li> <li>② 下側の紐を輪にする。 ※ 指導の際は、「下側の○色のリボンを」と色で説明する。</li> <li>③ 上側の紐を輪にしてくぐらせる。</li> <li>④ それぞれの色の輪を引っ張って、形を整える。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童等と横並びに座り、一つ一つの動きの手本を示しながら練習を行う。難しいところについては、手を添えて補助しながら、徐々に一人で行えるようにする。</li> </ul>

## 「生活スキル」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<p>○ 特定の色やデザイン、素材の衣服でないと身に着けられない。</p>	<p>○ 強い同一性保持がある。</p> <p>※同一性保持…行動、興味及び活動の限定された反復的で常同的な様式のこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TPOに応じた服装など全体的での統一した指導は一貫して行いながらも、個々の事情などは保護者や本人と確認して、必要であれば特例を設けるなどの対応をする。学校の全教職員にも周知する。</li> <li>● 「発表会の日には白いシャツと黒いズボンをはく」のように、どのような場でどのような服装をしなければいけないか事前に知らせる。本人が自分で準備したり着用する練習をしたりすることで見通しがもてたり不安が軽減されたりするよう配慮する。</li> <li>● TPOに応じた服装について具体的にどうすればよいか理解できるようにする。</li> </ul> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カレンダーに衣替えするべき日を記入したり気温が「〇度以上なら半そでを着る」と指定したりして、具体的にルール決めをする。</li> <li>・ 行事などに適した服装を写真などで例示する。</li> </ul>
<p>○ 身だしなみに無頓着で「だらしない」印象がある。</p>	<p>○ 感覚(触覚)に過敏がある。</p> <p>○ スムーズに着替えたり、整えたりするような体の動かし方に困難さがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 靴や靴下を履くことが苦手であれば、安全な範囲で、裸足でいろいろな素材の上で遊ぶような経験をして楽しく感覚刺激に慣れるようにする。</li> <li>● 鏡を見ながら身だしなみを整える練習をする。「えり」「ぼたん」等の確認の必要がある部分を文字や絵で書いたチェックカードで確認できるようにする。</li> <li>● 着替えに必要な動作につながる手足の動かしや手指の操作を遊びや運動で獲得できるようにする。</li> </ul> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人形の服でボタン止めの練習をする。</li> <li>・ 立位で体に輪を通す遊びで背中に手を回す練習をする。</li> </ul>
<p>○ 金銭管理をしなから買い物をしたり、公共の交通機関を利用したりすることが難しい。</p>	<p>○ 社会的な体験が少ない。</p> <p>○ 金銭を扱うための基礎的な概念を身に付けて活用することが困難である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小遣い帳をつける、買い物計画表を作る、買い物学習を行うなど、金銭に関する体験的な学習を多く設定し、金銭の扱い方を身に付けさせる。</li> <li>● 目的地への移動方法を学んだり覚えたりする。例えば、継時的な処理が得意ならば、時間系列に沿って整理したものを活用する。同時的な処理が得意ならば、地図に書き込んだものを活用する。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● お金の計算に苦手があれば、電卓を活用できるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 規則正しい生活ができない。</li> <li>○ 時間を守って行動ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特定の遊びや活動に強いこだわりがある。</li> <li>○ 時間の理解(概念)が身に付いていない。</li> <li>○ 物事を順序立てて(継時的に)整理したり考えたりするのが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童等のこだわりが強いこと(得意なこと)を生かした係の仕事や教師の手伝いの役割を設定する。</li> <li>● 活動終了の時間を板書したり、タイマーを使ったりするなどの視覚情報を提示する。</li> <li>● 自分でスケジュール管理ができるようにする。(例)タブレットの「ToDoリスト」などを活用する。</li> <li>● 学習や活動の流れを視覚的に示し、見通しがもてるようにする。</li> <li>● 周囲と違う行動をしているようなときは、注意の言葉掛けをするのではなく、周囲を見るよう促すなど自分で気付いて行動を調整できるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体調不良に対処できない。体調不良時に人に報告できない。</li> <li>○ 危険意識が低く、よく怪我をしたりさせてしまったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己管理が難しい。</li> <li>○ 自己理解ができていなかったり、それを表現するための言葉が分かっていなかったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夜間の睡眠の確認(携帯電話やゲームの管理)や、朝食の摂取など健康的な生活ができるよう家庭と連携して進める。</li> <li>● トラブルや事故があったり、授業中に寝てしまったりすることへの対応は、注意をするだけでなく、その時の行動を振り返らせ、どうすればよかったのか伝える。また、児童等が自身の衝動を抑えて適切に行動できるよう、その方法を一緒に考える。</li> <li>● 薬を服用にしている者については、医療機関とも連携しながら、なぜ薬を飲むか児童等の納得するように説明したり服用したかどうかや飲んでいるときと飲んでいないときの状態について確認したりすることで本人が服用の必要性について意識できるようにする。</li> <li>● 自分について表現するような機会や学習を設定する。自己理解・他者理解をするための学級・HR活動を学年で統一して実施する。</li> <li>● 自分について(体調や特性)について人に正しく伝えることができるよう自己理解をする学習をする。抽象的で理解できにくいことについてはイラストなどを活用する。</li> </ul>

「注意・集中」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<p>○ 作業や課題を最後まで仕上げることができない。</p>	<p>○ 見通しを立てて行動することが難しい。</p> <p>○ 指示の内容を具体的に理解していない。</p> <p>○ 作業に必要な基本動作や姿勢保持が習得されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● やるべきことは順を追って具体的に伝える。必要に応じて文字や図など、視覚的な情報も用いて伝える。</li> <li>● 課題などの始まりと終わりが明確に理解できるように伝える。「どのような内容のものを、どのような方法でどのくらいの時間をかけて、そして終わったらどうなるか」ということを分かって取り組めるように文字や図に示して伝える。</li> <li>● 個人の作業や課題の手順表を活用する。 (例) 付箋の1枚にやるべきことを1つずつ書く。バインダーなどに付箋を貼り、終わった項目から外して捨てる。バインダーに付箋がなくなれば「終わり」ということが習慣付くようにする。</li> <li>● スモールステップでの課題や達成可能な目標設定をする。課題や役割を達成できたときは称賛し、達成感を感じたり周囲と気持ちを共感できたりする経験を増やせるようにする。</li> <li>● 作業や課題が終わったら必ず確認するための時間を設ける。確認は教師や支援員、友達が手伝うようにする。間違いに気付いた場合は、訂正するための時間延長を認める。</li> <li>● よじのぼる、しがみつく、踏ん張るといった粗大運動と呼ばれる体を動かす遊びや活動を取り入れ、筋緊張や関節の曲げ伸ばしといった自分自身の体を感じ取る感覚(固有感覚)を高める。</li> </ul>
<p>○ 見たものや周囲の音が気になって集中することができない。</p>	<p>○ いろいろな刺激に影響を受けやすい。</p> <p>○ 学習や活動で何をしたらいいのかが分からない。</p> <p>○ 周りの状況を理解して自分の行動を調整することが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 不必要な刺激(掲示物・騒音など)を取り除いたり、机上の整理を徹底したりして教室環境を整える。</li> <li>● 特に大事ことを伝えるときのルールを決める。 (例) 毎回決まった音を出してから話し始める。黒板の決まった位置に書いて示す。口元に注目したり耳を済ませたりするようわざと小さい声で話す。</li> <li>● 一つのものに集中できる時間は何分ぐらいか把握する。本人が集中できる時間をベースに、活動を組み立てて、成功する水準からスタートする。 (例) 1時間の授業を、①読む ②操作する ③考える ④書く ⑤見直し→直しという一定の流れにし、一つの工程を10分程度で構成する。</li> </ul>

<p>○ 解答欄をずらして解答を書き忘れたり、計算時の符号や単位を書き忘れたりする。</p>	<p>○ 複数のことに注意を払ったり、一時的に記憶したりしておくことが苦手である。</p> <p>○ 視覚認知（空間的な位置関係を把握すること）が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題などの取組の途中や最後にやり方や書き方の間違いがないか、確認する時間を全体で設ける。可能であれば子ども同士で確認をさせる。うっかりミスがあれば「やり直し」を認め時間を与えるなどして、失敗のままで終わらないようにする。</li> <li>● 間違ったときに気持ちをリセットしたり、やり直したりする方法を身に付けられるようなソーシャルスキルトレーニングを行う。</li> <li>● 計算時の符号や単位などに意識が向くよう、問題に取り組む際の注意やポイントを強調して伝えたり、目に見える形で提示したりする。</li> <li>● 問題用紙と回答用紙が別紙のテストなどでは、問題用紙を問題ごとに区切るようにする。一問ずつ解くことに慣れてきたら解いた問題にチェックしていくような方法に切り替える。 (例) 問題文を一問ごとに切り離し、順番に止めておく。終わった問題は外して、問題の番号のところに丸を付け、解答用紙の同じ番号にもチェックする。 → 一問ごとに確認することが習慣付いたら切り離さずにチェックできるようにする。</li> <li>● 視覚認知に原因がある場合は、本人のやりやすい方法を認めたり、作業量を減らしたりするなどの配慮をする。 (例) 黒板の板書計画を渡し、手元で見ながら板書できるようにする。</li> </ul>
<p>○ 忘れ物が多く、提出物なども期日までに出せないことが多い。</p> <p>○ 物をよくなくす。</p>	<p>○ 多くのことを記憶にとどめておくことが難しい。</p> <p>○ 整理整頓ができず、自分の持ち物の管理ができない。</p> <p>○ 自分で計画帳が正しく書けていなかったり、自分の予定を把握することが難しかったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業ごとの「持ち物チェック表・提出物チェック表」を作り、必要な人は誰でも使っていいようにする。</li> <li>● 1日に1回机やロッカーやカバンの中の整理整頓をする時間を全体で設ける。その際に整理整頓ができた状態を写真や絵などを使って視覚的に示す。</li> <li>● 計画帳を有効に活用できるように工夫する。 (例) 書くことにこだわらず、教師や友達が書いたものをコピーして持ち帰るのもよいこととする。計画帳にチェック欄を設ける。</li> <li>● 「忘れてはいけないこと」の記憶の補助をする手段を確立する。 (例) 常にメモ帳を持ち歩く、タブレット端末に記録する。</li> </ul>



<p>○ 人の話を聞き間違っていたり、課題で問題を最後まで読まずに間違ったりする。</p>	<p>○ 衝動性が強く、少しの情報で判断して行動してしまう。</p> <p>○ 自分の行動を振り返ることが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 注意が散漫しないよう、教師が話す時間と子どもが発言する時間を明確に分けるなど、学習環境を整える。</li> <li>● 問題文を読む際には、大切な言葉に線を引きながら読む、最後まで読んだら印を付けるなど、問題を最後まで読むための手立てを用意し、短い問題文から段階的に練習する。</li> <li>● 文章を注視できるよう、半透明のスリット入りシートを活用したり、定規を当てたりしながら一行ずつ確実に読む練習をする。</li> <li>● 問題に取り組んでいる時に、気を付ける点について言葉を掛ける。気を付けている様子が見られたら、「〇〇に注意しているね」などと言葉にして伝える。(セルフモニタリング※)</li> <li>● チェックリストを用い、問題を解いた後に書き忘れないかななどの見直しを習慣化する。</li> </ul>
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ セルフモニタリング

行動面につまずきがある子どもの中には、「セルフモニタリングの力」、つまり自分の行動を客観的に見る力が弱い場合、自分の行動を点検したり調整したりしながら行動することが難しい場合がある。この場合、周囲の者が本人の行動を分かりやすく（分かりやすい言葉で伝える、動作を交えて伝える、図や絵をかいて伝える、ビデオ等で見せるなど）伝えることが、援助として必要である。事前に、意識しておくことよい行動（望ましい行動など）を伝えたり、事後に振り返りをしたりすることも大切だが、本人が行動をしているときに、「今、〇〇をしているね」「そのやり方はいいね」「〇〇に気を付けてやっているね」など、子どもの取組の状況を解説（実況）するような言葉掛けを行うことも、子どもが自分の行動を意識したり、知ったりするための手助けになる。

このほか、周囲の状況や相手の気持ちなどについても、分かりやすく伝えたり、何をどうすればよかったか、どうすればよいかなどについて一緒に考えたりしていくことも大切な支援である。

## 「行動の調整」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
<p>○ 手遊びをしたり、周囲の友達としゃべったりして集中できない。</p>	<p>○ 授業内容が分からない。</p> <p>○ 待つことや我慢することが苦手である。</p> <p>○ 話を聞く時のルールを知らなかったり、身に付けていなかったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「今、何をするか」という情報を視覚情報、聴覚情報で示す。</li> <li>● 分かりやすい課題を用意する。</li> <li>● タイマーを用いる。</li> <li>● 対象児童等に対して、しゃべってもよい時といけない時とをサインやカードで知らせる。</li> <li>● 休み時間に「おしゃべりタイム」等の時間を設定し、十分に話す時間を設ける。</li> <li>● 授業の様子をビデオに撮り、客観的に自分を見つめる力を養う。</li> <li>● 「挙手して指名されてから答える」という話の聞き方のルールを決めておき、児童等が意識できるよう見えるところに貼っておく。</li> </ul>
<p>○ 離席をする。</p>	<p>○ 興味があるものへの気持ちを抑えにくい。</p> <p>○ 続けて同じことをすることが苦手である。</p> <p>○ 状況把握の力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 注意が散漫になる刺激を除くなど、教室内の環境を整える。</li> <li>● 配付係など状況によって離席してもよい環境を作る。</li> <li>● 席を立つ前に、「手を挙げる」「先生を呼ぶ」等の合図を示すなど、許可を求めるためのルールを決める。</li> <li>● 授業内容に「読む」「書く」「聞く」「考える」「話す」などの活動をバランスよく取り入れる。また、長時間、同じ活動をしない。</li> <li>● 一つの課題の量(時間)を減らし、「できた」回数を増やす。 (例) 「文化祭の作文を書く」を「文化祭を振り返る」「キーワードを書き出す」「書きたいことを選ぶ」「絞った話題に沿って文章を書く」「文章を推敲する」など、活動を細分化して達成感を味わわせる。</li> <li>● 危険な場所や入ってはいけない所、触れてはいけないものに、禁止マークを貼っておく。</li> <li>● 危険な行動には、毅然とした態度で接するようにし、後から自分の行動を振り返る場面を設定する。</li> </ul>

<p>○ 自分に自信がなく、考え方がネガティブで劣等感を抱きやすい。</p>	<p>○ 苦手分野や失敗と向き合うことが難しい。失敗体験が多く、自信喪失や自己否定をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価する言葉（素敵、かっこいい）や失敗の意味を和らげる言葉（ドンマイ、大丈夫）などポジティブな言葉掛けをする。</li> <li>● 学級活動で友達のいいところ探しゲームをするなど、学級全体で長所や得意なことを共有する。</li> <li>● 得意なことや成功したことを大いに評価し称賛する。</li> <li>● 得手・不得手や好き嫌いを整理し、それらを他者に理解してもらえるような伝え方を教師と一緒に考える。</li> <li>● 一日の終わりには振り返りの時間を設け、肯定的な評価で終わる。</li> <li>● 失敗を恐れないように、苦手分野は他者に頼ってもよいことにする。</li> </ul>
<p>○ 我慢ができず、かんしゃくを起こす。</p>	<p>○ 感情をコントロールすることが難しい。</p> <p>○ 自分の要求や拒否などの意図や思いをうまく伝えられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 友達関係が築きやすい環境を整える。※1</li> <li>● 「良いこと」と「悪いこと」を分かりやすく、表情をつけて伝える。</li> <li>● 感情を表現する語彙を伝え、共感する機会を多く設ける。</li> <li>● 「ちょっとタイム」カードを持っておき、我慢ができなくなった時に、教師に渡して別室でクールダウンする。</li> <li>● トラブルへの対処方法を決めておく。※2</li> <li>● ソーシャルスキルトレーニング（SST）やアンガーマネジメントを活用して、適切な人との関わりや気持ちが落ち着く方法を学習する。※3</li> </ul>
<p>○ 勝敗に強くこだわる。（自分の意に沿わないと落ち着かない。）</p>	<p>○ 「勝つこと」や「早いこと」がよいことだと強く思っている。負けた時の対応方法が分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 勝つことがよいという単純な価値観を変えるため、勝ったり負けたりすることがあることや、最後まで楽しく遊ぶことがよい行動だと伝える。</li> <li>● 「ルールを守ること」「負けた後、前向きに作戦を立てること」の大切さを伝える。また、作戦を立てる時間をとったり、よい行動を称賛したりする。</li> <li>● 「2番の人が勝ち」「最後まで負け続けた人が勝ち」等というルールを取り入れる。（1番でないこと、自分の意に沿わないことに慣れる。）</li> <li>● 負けた時の対応をソーシャルスキルトレーニング（SST）で学習する。（「特別の教科 道徳」の授業等で全体に指導することもできる。）</li> </ul>

<p>○ 急な変更に対応できない。</p>	<p>○ 予定が変更されると活動の見通しがもたにくい。</p> <p>○ 言葉による説明だけでは、注意の集中が持続できず、情報を捉えることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予想できる変更点は、分かりやすく伝える。変更するときは変更内容を伝える前に「変更するよ」など決まった言葉を使い、変更する状況に少しずつ慣れさせる。</li> <li>● 変更後の時間割等の情報を視覚的(板書、メモ)に確認できるように明示し、説明する。</li> <li>● 児童等にノートに記録させ、いつでも確認できるようにする。</li> </ul>
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※1 友達関係が築きやすい環境

(例)

- ・遊び(追いかけっこやルール簡単なゲーム)に入れるように支援者から働き掛ける。
- ・遊びを振り返り、楽しかったことや困ったことを振り返る。
- ・グループのメンバー構成や席替えなどに配慮する。
- ・本人の得意な遊びを取り上げる。

※2 トラブルへの対処方法

(例)

- ・困ったときは、大人(保護者や教師)を呼びに来ることを伝えておく。
- ・分からないときは相手に尋ね返すことを教える。
- ・言いたいことを代弁する。
- ・トラブルが起こって本人が落ち着いた後、「どうすればよかったか」を一緒に考える。

※3 ソーシャルスキル

対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能のこと。

挨拶やお礼、謝罪、依頼の仕方、初対面/年上/友達への言葉遣いなど幅広い内容になる。

具体的に「友達が鉛筆を落としたらどうするか」など本人に当てはまる状況で考えていくと分かりやすい。

アンガーマネジメント

人が抱える混沌とした怒りや悲しみ、劣等感などを自分の中で整理し、その状況を客観的に見ることで、怒りなどの強い気持ちが生じてもそれを適切にコントロールし、問題解決を図るというスキルのこと。

ソーシャルスキルトレーニング (SST) 実践方法

- ① 教示/そのスキルがなぜ必要か、そのスキルが身に付いているとどのような効果があるかを言葉や絵カードなどを用いて説明する。
- ② モデリング/手本となる他者の振る舞い(スキル)を見て学ばせる。または不適切な振る舞いを見せ、どこに間違いがあるかを考える。
- ③ リハーサル/スキルを支援者や友達を相手にして実際に練習する。主にロールプレイングの手法が用いられる。
- ④ フィードバック/行動や反応を振り返り、それが不適切であれば修正を行う。
- ⑤ 般化/教えたスキルが指導場面以外のどのような場面(時、人、場所)にでも発揮できるようにする。

## 「対人関係」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 一人でいることが多く、友達と過ごすことがほとんどない。	○ 人間関係の築き方に不器用さがある。  ○ 集団行動における失敗経験が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仲間意識や帰属意識を養うために、人とかかわることや一体感が味わえるような全員参加型のレクリエーションをする。</li> <li>● 集団をつくるときには、共通の趣味をもつ友達や気の合う友達と意図的に同じグループにする。</li> <li>● 自分のことの発表や他者から長時間の注目、身体接触がある活動は、心理的な負担が高いため、最初は様子を見ながら徐々に負荷の高い活動を取り入れる。</li> </ul>
○ グループ活動等、他者と協調しながら活動することが苦手である。	○ 他者に合わせるスキルが身に付いていない。人と協力して何かを成し遂げた経験が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 班活動の場合では、「〇〇さんは司会、〇〇さんは記録、〇〇さんは発表」など役割を明確にする。</li> <li>● 活動を通して、一緒に行動をする、声を合わせる、声を掛ける、相談する、認めるなどいろいろな協力の仕方があることを伝える。</li> <li>● 掃除の場面では、「あなたはちりとりを持って、〇〇さんがほうきで集めたゴミを入れてね」と具体的な協力の仕方を伝える。</li> <li>● 上手に協力ができている友達を参考にするよう促す。</li> </ul>
○ きまりやルール、他者との約束を守れないことが多い。	○ 簡単に説明しただけではきまりやルールの理解が難しい。  ○ 時間の管理や時間の概念を理解することが難しい。  ○ 不注意や衝動性がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分かりやすくシンプルなきまりやルールにする。</li> <li>● きまりやルールを文章とイラストで示す。</li> <li>● 様々なルールに対応できる力を身に付けるため、最初は自由度の高い遊びの場面で臨機応変にルール変更をする。</li> <li>● 目につく場所にメモを貼ったり、スケジュール帳を活用したりして、約束や時間の管理方法を教える。</li> <li>● 時間に遅れるなど、約束が守れそうにない場合は、他者に手伝ってもらったり謝罪したりするスキルを身に付ける。</li> <li>● タブレット端末等のリマインダー機能や通知アプリを使う。</li> <li>● 衝動性から生じたうっかりミスは寛容に対応しながらも、約束したことについては、その都度確認をする習慣を身に付けさせる。</li> </ul>

<p>○ 相手に対する距離間が近い。</p>	<p>○ 他者との関わり方についてマナーがあることを知らない。</p> <p>○ 異性への興味が高い。</p> <p>○ 相手の表情やしぐさから、気持ちを想像することが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族を含めた支援者は、指導内容を共有し、関わり方を統一する。</li> <li>● 話をする時は「腕一本分離れましょう」「3歩離れましょう」など目で見て確認できるように具体的な距離を伝える。</li> <li>● 臨機応変に関わることは難しいので、「隣に座ったとき」「並んでいるとき」などパターンで繰り返し伝える。</li> <li>● 保健の授業や性教育と関連させ、年齢に合わせた関わり方を伝える。</li> <li>● 異性と関わる場面でどのように振る舞うか、イラストを示しながらロールプレイをする。</li> <li>● 「相手が後ろに下がった時は嫌な合図だよ」など、判断しやすいポイントを伝える。</li> <li>● 絵や簡単な物語を使い、その場面での表情や気持ちについて説明したり、実際の場面を想定し相手の気持ちを伝えたりしながら、場面や状況に応じた適切な対応を理解させる。</li> </ul>
<p>○ 周りの者が言わないことも遠慮なしに言ってしまう。</p>	<p>○ 暗黙の了解が分かりにくい。</p> <p>○ このことを言ったら相手が嫌な気持ちになることが分かりにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なぞなぞ等の言葉遊びを通して、比喩的表現や語用論的な隠された意味の理解を促し、暗黙の了解※の存在に気付かせる。</li> <li>● 形容詞等の中から、感情表現に使われる言葉を意識させる「言葉遊び」や「言葉集め」をさせる。</li> <li>● ジェスチャーゲームを通して、身振りや表情から相手の感情や雰囲気を感じ取る練習をさせる。</li> <li>● 実際の場では、どのように言うのがよいか考えさせるのではなく、分からない時は望ましい表現を短い言葉ではっきりと教えるようにする。</li> </ul> <p>※ 言葉にしなくても、皆が了解している関係性のこと。その場の空気を読み、又は意思を察知して誰もが相互理解すること。</p>

## 「コミュニケーション」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 挨拶や返事をしない、うまく言えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や返事の仕方が分からない。</li> <li>○ 挨拶や返事が社会的に必要であることが分かりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どのような場面でどんな挨拶や返事をするのかなどをまとめたものを作り、パターンとして提示する。</li> <li>● 望ましい行動について、絵などの視覚的情報を言葉とともに示し、イメージとして理解させ実践化できるようにする。</li> <li>● 挨拶や返事の意義を伝え、学級全体で共通の意識をもって取り組む。</li> <li>● 挨拶や返事の後に好ましいこと（喜ばれる、好きな活動ができるなど）が起こる経験を積めるようにする。</li> </ul>
○ 友達と話すことが少ない、友達との会話が続かない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の表情や仕草から、相手がどのように感じているのかを理解することが難しい。</li> <li>○ 会話の基本的なスキルを獲得していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手を傷つけない話し方など、好ましいふるまいについて学ぶ機会をもつ。</li> <li>● 表情カードなどを使い、表情や仕草から相手がどのように感じているのかを考える。</li> <li>● 会話の基本的なスキルを教える。 (例)・話し手を見て、相手の話にならずいたり、相づちを入れたりする。 ・話の内容に合わせて表情を変化させたり、動作を入れたりする。 ・話をさえぎらず、交互に話す。</li> <li>● 教師が会話の相手役を担いながら、その役割を学級内の友達に移行できるように支援する。</li> </ul>
○ 言いたいことを相手に関係なく、一方的に言う。不適切な言い方をして、トラブルになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の言葉が相手の気持ちに影響することへの意識が低い。</li> <li>○ 相手の表情や場の雰囲気を読み取ることが苦手である。</li> <li>○ 行動を調整したり、振り返ったりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会話の基本的なマナーを教える。 (例)・話しかける前や話題を変えるときには、一言確認する。 ・自分の興味のある話だけをしないで、相手の意見を聞くようにする。</li> <li>● 相手を傷つけない話し方など、好ましいふるまいについて学ぶ機会をもつ。</li> <li>● 吹き出しカード等で相手の発言を振り返ったり相手の気持ちを考えたりする。</li> <li>● 生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、相手の立場や考えていることなどを推測するような指導を通して、他者とかかわる際の具体</li> </ul>

		<p>的な方法を身に付けたり、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。</p>
<p>○ 自分の気持ちを伝えられない。困っていても援助を求めず、作業が中断したままになる。</p>	<p>○ 自分の考えや気持ちを的確に表現できない。</p> <p>○ 「分からない＝悪いこと」と思い込んでいる。</p> <p>○ どのように質問したり、援助を求めたりしたらよいか分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気持ちを表す絵カードを使ったり、簡単なジェスチャーを交えたりして、気持ちを伝える手段を広げる。</li> <li>● 協力して遂行するゲームなど、認知の発達や社会性の育成を促す学習などを通して、自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切な関わりができるようにする。</li> <li>● 質問をしたり援助を求めたりする経験を重ね、相談することの良さが実感できるようにする。</li> <li>● 援助を求めることを伝えるカードを作ったり、サインを決めたりする。</li> <li>● どのような時にどんな話し方をしたらよいかを考え、カードなどにまとめておく。</li> </ul>
<p>○ 含みのある言葉を言われても分からず、言葉どおりに受け止めてしまう。</p>	<p>○ 曖昧な言い方が分かりにくい。比喻表現や慣用句の意味理解、言葉の裏の意味を読み取ることが苦手である。</p> <p>○ 相手の表情や場の雰囲気を読み取ることが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抽象的な言い方や曖昧な言い方をしないで、「何をすればいいのか」具体的な行動を伝える。</li> <li>● 慣用句などの言葉の意味や状況に応じた使い方を指導するなど、言葉には様々な意味や使い方があることをあらかじめ知らせておく。</li> <li>● 伝えたいことは分かりやすく、シンプルに視覚的手掛りを使って話す。</li> <li>● 本人が理解しにくい場面については、個別に場の状況や相手との関係を説明するとともに、適切な会話や対応の仕方を教えていく。</li> </ul>
<p>○ 相手の話を理解していない。質問に適切に答えることができない。</p>	<p>○ 聞いて理解することが苦手である。認知に偏りが見られ、聴覚的情報処理が弱い。</p> <p>○ 質問に対しての答え方が分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指示や情報は、視覚的手掛り（絵カード、文字カード等）や身振り・動作を使って分かりやすくシンプルに提示する。</li> <li>● 視覚的教材を活用するなど、得意な認知処理能力を生かして、他者の話をしっかり聞く力を育てる。</li> <li>● グループ活動の際に、小集団で話を聞く練習をし、徐々に集団の規模を大きくしていく。</li> <li>● 要点やキーワードを提示して、質問の要点がはっきり分かるように話す。</li> <li>● 聞き手と話し手の役割交代をするなど、話のやり取りの練習をする。</li> </ul>



## 「感覚過敏」への指導・支援

困難例	考えられる背景	支援の手立て
○ 極度の偏食がある。	<p>○ 味覚などの感覚に過敏性がある。</p> <p>○ 筋力が弱く姿勢を保持できなかつたり、噛みきりができにくかつたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 極度の偏食などについては、原因や対応について保護者とも連携して取り組む。「食」に関する困難が本人にとっての大きな負担にならないように配慮する。改善すべきことの「何を優先するか」を具体的に決め焦らずスモールステップで取り組むようにする。</li> <li>● 苦手な食材を自分で調理してみても味付けや切り方などで食べられる方法がないかを模索できるようにする。</li> <li>● 姿勢や咀嚼に筋力の弱さが要因である場合は、それを補助する手段を工夫する。姿勢が保持しやすい椅子やクッション、足台を工夫したり、使いやすい食具を使ったりする。</li> <li>● 咀嚼の力や姿勢を保持するための筋力トレーニングを遊びなどに取り入れながら取り組めるようにする。 (例) バランスボールに座って静止したり、上半身の運動(踊りなど)をしたりする。あたりめを食べたり、吹き矢で的当てをしたりする。</li> </ul>
○ 大きな音や特定の音が怖くて活動に参加できなかつたり、耳を手でふさいだりする。	○ 聴覚に過敏がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イヤーマフの使用などについて「視力を補うために眼鏡をかけるのと同じ」であることの例などを示して周囲の理解を促す。</li> <li>● 放送機器の音量や運動会でのピストル音の使い方など、可能なことは全体で統一する。</li> <li>● 苦手な刺激がある場への参加について無理強いほしくないようにしながら「何がどう嫌か」について本人と確認する。本人の思い込みや分からないことからの不安であれば、正しい情報を分かりやすく伝える。</li> <li>● 過敏が原因で我慢できない活動や場があるときは、別の場所で過ごすことや活動から離れることを認めるが、そこでの「いつまでどのように過ごすか」はルールを決めておく。</li> </ul>

<p>○ 特定の物を見続けることができない。</p> <p>○ 様々なものに次々と目移りしたり、触りに行ったりする。</p>	<p>○ 視覚に過敏がある。</p> <p>○ 視覚情報の入力が強すぎる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遮光グラスなどの使用などについて「視力を補うために眼鏡をかけるのと同じ」であることの例などを示して周囲の理解を促す。</li> <li>● 見え方についての視覚機能のチェックなどを行い必要があれば専門機関に相談したり、ビジョントレーニングをしたりする。</li> <li>● 物の配置や教材の提示の仕方を整理し、必要な情報に注目しやすくする。</li> </ul>
<p>○ 糊や土を触るのを嫌がり触れない、触ったらすぐに手を洗う。</p>	<p>○ 触覚などの感覚に過敏がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手に何かが付いたり汚れたりする制作をする場合は、手袋をすることを認めたりお手拭きを側に置いて拭けるようにしたりする。</li> <li>● 本人が苦手な感覚について不快指数を点数化して表現したり、言語化して表現したりする練習をする。このような方法で自己理解した上で、回避する方法を見つけたり、我慢して取り組んでいけることを(スモールステップで)決めて挑戦したりする。</li> </ul>
<p>○ 洗髪や顔を洗うことを怖がったり、散髪や爪切りを極端に嫌がったりする。</p>	<p>○ 触覚過敏があり、触ることや触られることに過剰な反応を示す。</p> <p>○ 触覚過敏により不快な感覚を他者より強く感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 衛生面の身辺処理については、学校で配慮することと家庭で取り組むことの役割分担をするなど、家庭と連携して取り組んでいくようにする。</li> <li>● 衛生面の身辺処理についてチェックカードなどで確認するようにする。確認は学級などで行わず養護教諭などが行うなどしてプライベートなことである意識ももてるようにする。</li> <li>● 衛生面の身辺処理の必要性を分かるように話をしたり、実際に他のモデルとなる者が行っている様子を見たりしながら、自ら選択して行動に替えていくように働きかける。</li> <li>● 爪切りならば指先をマッサージしたり擦ったりするなど、感覚過敏に対して軽い刺激を与えながら徐々に慣れさせていく。</li> <li>● 低年齢であれば、くすぐりっこなどの遊びを通して、少しずつ身体接触に慣れさせていく。</li> </ul>

参 考 発達障がいを理解する ①

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であつてその症状が通常低年齢において発現するもの」（発達障害者支援法における定義 第二条より）と定義されています。

● LD (学習障害) の定義

基本的には全般的な知的発達に遅れはないものの、聞く、話す、読む、書く、計算する、又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものである。

その原因として、中枢神経系に何らかの機能障がいがあると推定されておりますが、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、情緒障がいなどの障がいや、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

● ADHD (注意欠陥多動性障害) の定義

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障がいで、社会的な活動や学業等に支障をきたすものである。

また、通常7歳前に現れ、その状態が継続するもので、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

● 自閉症の定義

3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを主な特徴とする。このうち、知的発達の遅れを伴わないものを高機能自閉症といい、知的発達の遅れを伴わず、かつ自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものをアスペルガー症候群という。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。

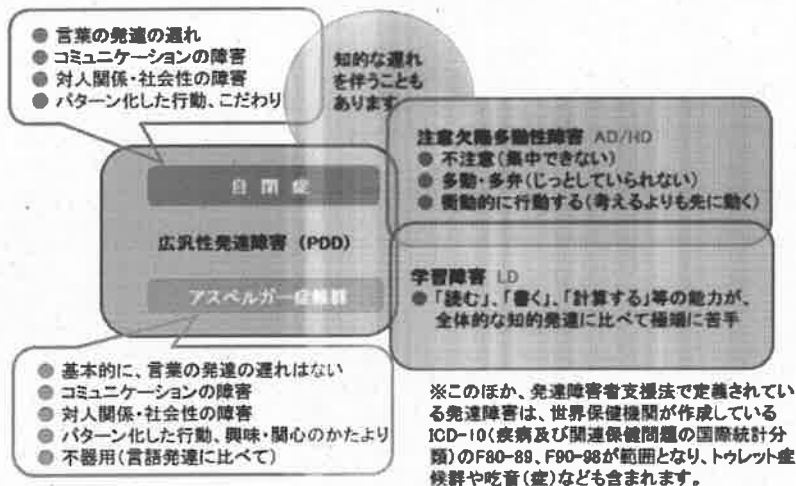


図 それぞれの障がいの特性 (発達障害情報・支援センターHPより)

## 参 考 発達障がいを理解する ②

発達障がいに属すると考えられている種々の障がいは、明確に分けて診断することは大変難しいとされており、臨床的な認知・行動特性からみて、発達障がいは典型的な事例から非定型的な事例までスペクトル（連続体）をなしていると考えられています。そのため、最近では、自閉症スペクトラム障害（ASD）という呼び方もされています。障がいごとの特徴がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。

- **発達障がいの基本的な特徴**
  - ・ 乳幼児期か児童期に発症する。
  - ・ 基本的な障がいは脳の障がいによって起きている。
  - ・ 基本的な障がいの経過としては、悪くなることもないがよくなることもない。
- **発達障がいのある児童等の特徴**
  - ・ 「困った子ども」は「困っている子ども」であり、発達障がいの可能性があること。
  - ・ 「何度注意しても変わらない」場合には、本人意思では「変わらない」発達障がいの可能性があること。
  - ・ 「やる気がない」「努力が足りない」と見える子どもは、「努力してもできない」ために「一層意欲をなくしている」発達障がいの可能性があること。

今後、インクルーシブ教育システムを推進していくためには、全ての教員が、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められます。特に発達障がいに関する一定の知識・技能は、発達障がいの可能性のある児童等の多くが通常の学級に在籍していることから必須と考えられます。

### 発達障がいに関する情報は

発達障がいに関する詳細については、国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センターHP又は、国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センターHPを参照



発達障害教育推進センター



発達障害情報・支援センター

#### ■ 愛媛県発達障がい者支援センター あい♡ゆう

専門スタッフによる発達障がいに関する相談や情報提供を行っています。必要に応じて、関係機関や支援機関などの紹介もします。

TEL 089-955-5532 FAX 089-955-5547  
<http://www.pref.ehime.jp/h20123/kodomo-ryoiku/aiyu/>

※ 発達障害教育推進センターHP、発達障害情報・支援センターHP及び「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド（国立特別支援教育総合研究所）」から引用